授業科目名	地域福祉と包括的支援体制	単位数	4
担当教員名	豊田　宗裕	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

本科目は共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲の助長を担うべきものである。共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

　地域福祉の視点と理論を学び、地域における包括的支援体制構築のため、将来専門職として、地域福祉の担い手として必要となる制度や社会資源などを、社会福祉の実践現場で実践できるようになることを学修の到達目標とする。

　具体的なテーマとしては、次のことを掲げる。

（１）地域福祉の基本的な考え方とその推進主体について理解する。
（２）地域福祉の発展過程とその実態について理解する。
（３）福祉行財政のシステムについて理解する。
（４）福祉計画の意義と種類、政策と運用について理解する。
（５）地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について学修する。
（６）地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制と多機関協働について理解する。
（７）災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解する。
（８）地域福祉と包括的支援体制の課題と展開について学修する。

授業の概要

　現代社会において、何故「地域福祉」という考え方が重要視されるようになってきたのかを理解し、その背景となった事柄等を把握する。そうした上で、地域福祉の構成内容や概念の変化が起こってきた理由について時系列で理解していく。本科目では地域福祉の具体的な推進機関や人的資源、法制度な日本ソーシャルワーカーどの要素が取り上げられることが多いので、そうした社会資源について実践現場の中でどのように用いられているのかを確認しながら、具体的な事業等を理解する。（学んだ内容を、自分の住んでいる街では具体的にどのように行われているのかを調べてみる）

　併せて、地域福祉を展開するうえで福祉行財政の仕組みがどのように構築されているのかを理解し、その実現のための福祉計画（行政計画を中心に）の内容や実施方法についても、理解を深める。

授業計画：

第１回：地域福祉を学ぶにあたって（授業の導入・地域福祉の概念と理論）
第２回：新しい社会福祉システムとしての地域福祉（地域福祉の歴史的な展開）
第３回：地域福祉の推進主体についての理解①（自治体、社会福祉協議会、共同募金など）
第４回：地域福祉の推進主体についての理解②（民生委員、ボランティアなど）
第５回：地域福祉における主体形成と福祉教育の持つ意味
第６回：福祉行政システムについての理解（行政組織とその役割・国と地方の関係）
第７回：福祉における財政についての理解（国・地方自治体財源、保険料財源、民間財源等）
第８回：福祉行政の組織と専門職の役割（相談機関の種類とその役割、専門職の役割）

第９回：福祉計画の意義と目的・その展開方法 第１０回：福祉計画の種類とその内容（分野別計画、市町村・都道府県計画の機能とその内容） 第１１回：地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 第１２回：地域包括ケアシステムについて学ぶ（地域包括ケアシステムの考え方と枠組み） 第１３回：活困窮者自立支援の考え方について学ぶ 第１４回：地域共生社会の実現に向けた各種施策について学ぶ（歴史的な背景と考え方理解） 第１５回：災害時の総合的・包括的な支援体制の構築について学ぶ（法整備と福祉分野における取り組み） 定期試験
教科書 （１）新・社会福祉士シリーズ 10　地域福祉と包括的支援体制　弘文堂　2022 年
参考文献 （１）岩間・原田著『地域福祉援助をつかむ』有斐閣　2012 年 （２）上野谷ほか編『よくわかる地域福祉』（最新版）ミネルヴァ書房 （３）岩間・野村ほか編著『地域を基盤としたソーシャルワーク』中央法規　2019 年
学生に対する評価 レポート評価（５０％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。